

特別養護老人ホームの建て替えに伴う環境移行に関する研究 ～建て替え前後による入居者の行動と空間利用の様態～

キーワード：特別養護老人ホーム，建て替え，環境移行
行動観察調査，従来型，ユニット型

石井研究室 田村 大斗
阿部 晏菜

1. 研究の背景と目的

特別養護老人ホームは（以下、特養）は1963年の老人福祉法制定とともに創設された。介護を効率良く行えるよう4人部屋と廊下、食堂・ホールを中心とした「施設の」形態が普及した。そのため、居住環境が不十分でプライバシーが守られていない部分も多い。現在は築40年前後経過した施設も多く、建て替えの時期が迫りつつある。

一方、施設はこの20年で大きく変化し、暮らしの場としての施設づくりに移り、個室を前提とし、小規模な生活・介護単位とするユニット型に移行している。

本研究では、多床室・大規模処遇型から個室・ユニットケア型へ建て替え・移転した施設を対象として「環境移行」の観点から、施設形態の変化が入居者の生活や空間利用に与える影響を明らかにすることを目的とする。

2. 調査対象施設の概要及び調査方法

調査対象は山梨県上野原市にあるS特養である。建て替え前は4人室中心の従来型（定員81名）で4つの介護単位で構成されていた（図2）。建て替え後は全室個室のユニット型（定員80名）で6つのユニットから構成されている（図2）。調査は建て替え前の2019年6月と建て替え後の2019年11月に行なった。フロア毎に調査員を配置し、10分毎に入居者の「滞在場所」「行為」等を記録する行動観察調査（7時～19時）による。分析対象は環境移行前後で入居していた59名とする（表1）。なお、本研究では認知症度の自立・Iを「軽度」、IIを「中度」、III、IVを「重度」と、また要介護度は1と2を「軽度」、3を「中度」、4、5を「重度」と定義して分析する。

3. 入居者の生活様態の変化

3-1 空間利用タイプ

図1は入居者の空間利用タイプを分類し、環境移行前後での変化を示す。居室滞在型、2拠点型（2拠点での滞在率が7割超）、共用空間滞在型、多空間利用型、廊下滞在型の5つに分類した。移行前に最も多かったタイプは共用空間滞在型（20人）だが、移行後は2拠点型（23人）が最も多くなった。移行前に廊下滞在型や多空間利用型だった多くが、移行後に共用空間滞在型に変化した。

3-2 滞在場所の変化

全体では、廊下が16.3%から5.7%に減少し、共用空間が43.4%から56%に増加した（図3-1）。認知症度別では中度では廊下と共用空間が減少した。一方、居室は増加した。重度では居室の滞在率が減少し、共用空間が増加した。

要介護度別では、軽度は居室が減少、廊下は大幅に減少し、共用空間が大幅増加した。中度では廊下が減少し、共用空間が増加した。重度では廊下が減少した。一方で居室や共用空間が増加した。

Aさん（認知症度：II→IV、要介護度：4→4）を例にみると、居室が大幅増加し、共用空間が大幅減少した（図4）。

3-3 行為の変化

食事、排泄、会話などの行為は大きな差がみられない。全体では移動が減少し、無為が増加した（図3-2）。認知症度別では中度では無為や睡眠、移動が減少し、日常会話や音楽、読書が増加した。重度では移動や食事が減少し、TVや無為が増加した。要介護度別では軽度では無為や移動が減少した。一方でTVは10ポイント以上増加した。重度では移動が減少し、無為が増加した。

3-4 姿勢と支持具の変化

全体では姿勢に大きな変化はなく、イス座位が9割を占めた（図3-3）。認知症度別では中度・重度ともにイス座位リクライニングが減少し、イス椅座位が増加した。要介護度別では軽度ではイス座位が減少し、立位が増加した。

支持具についても図3-4に示す通りである。

3-5 空間移動の変化

全体では平均移動回数は9回から7回に減少した。認知症度別では中度では7回から13回に増加した。重度では減少した。要介護度別では軽度で大幅に減少した。全体では移動回数が増加した人が10人、変化のない人が9人、減少した人が40人であった。

4. まとめ

環境移行により6割以上の入居者に生活の中での移動回数の減少がみられた。ユニット型に移行し、生活単位と生活空間領域が小規模化したことで移動が減少したと考えられる。また共同生活室（リビング）での安定した滞在が増えたとも捉えられる。一方、個々の分析からは移動が増えたり、空間利用タイプが変化した人もみられた。行為からは読書や音楽などの娯楽活動の増加が示された。認知症の重症化に伴い、居室の滞在が減少し、共用空間が増加する傾向も明らかになった。重度認知症では、滞在場所に偏りがみられた。

本調査結果はあくまで環境移行直後の様態である。空間や生活へのなじみは時間経過によるところも大きいと考えられることから、今後も継続して調査を行い、環境移行による空間が与える影響を明らかにしていきたい。

表 1. 施設と入居者の概要

		移行前	移行後
施設種別		従来型	ユニット型
建物階数		2階	3階
居室タイプ		多床室	個室
平均年齢(歳)		88.3	88.3
平均要介護度		3.49	3.58
要介護度(人)	軽度	7(11.9%)	5(8.5%)
	中度	21(35.6%)	20(33.9%)
	重度	31(52.5%)	34(57.6%)
認知症度(人)	軽度	22(37.3%)	0(0%)
	中度	25(42.4%)	6(10.2%)
	重度	12(20.3%)	53(89.8%)

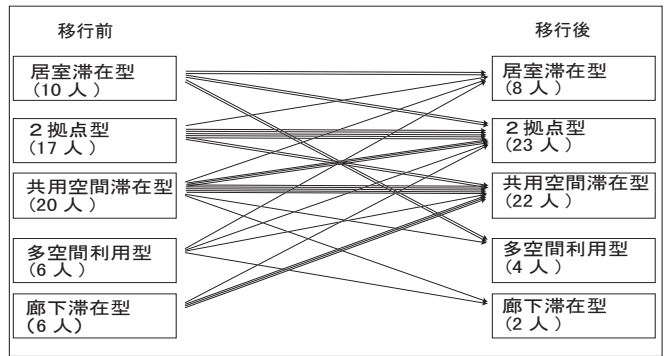


図 1. 空間利用タイプ

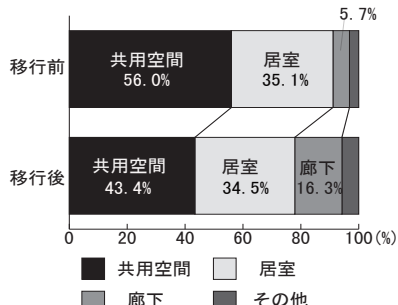


図 3-1. 入居者全体でみた滞在場所割合

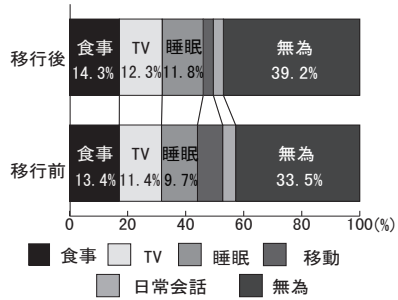


図 3-2. 入居者全体でみた行為割合

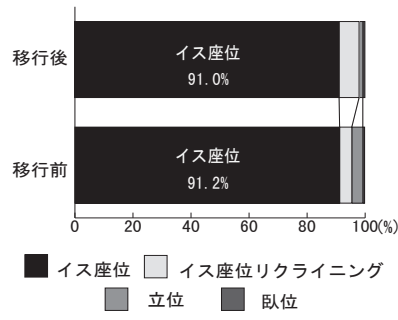


図 3-3. 入居者全体でみた姿勢割合

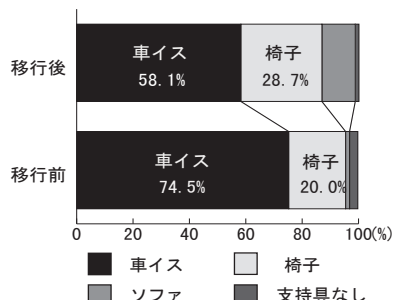


図 3-4. 入居者全体でみた支持具割合

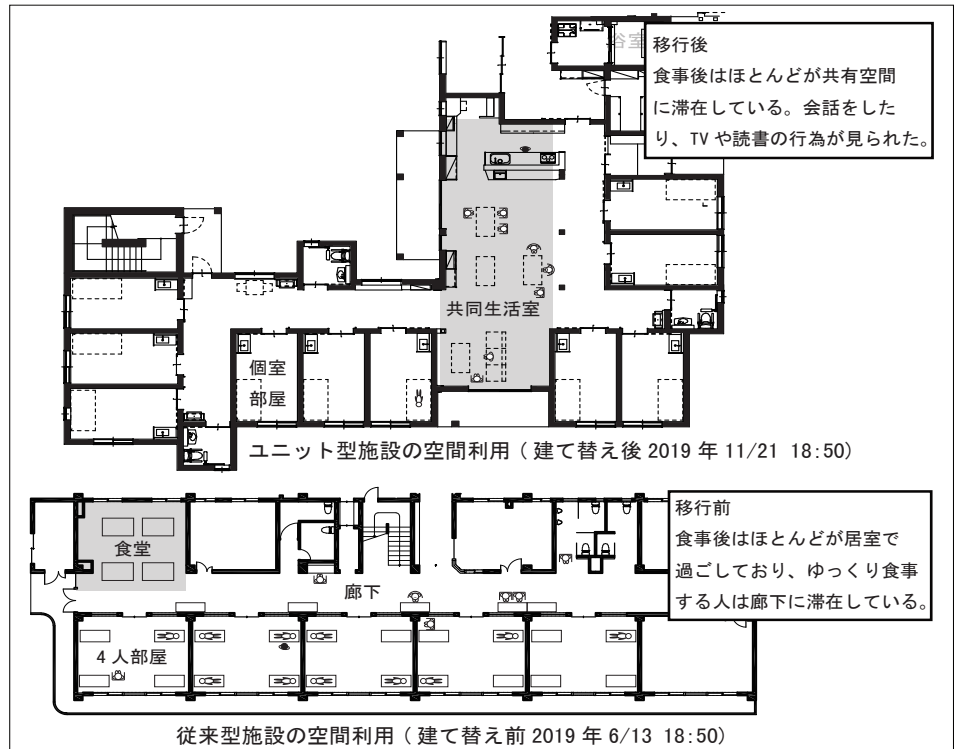


図 2. 建て替え前後の施設平面一部と空間利用場面

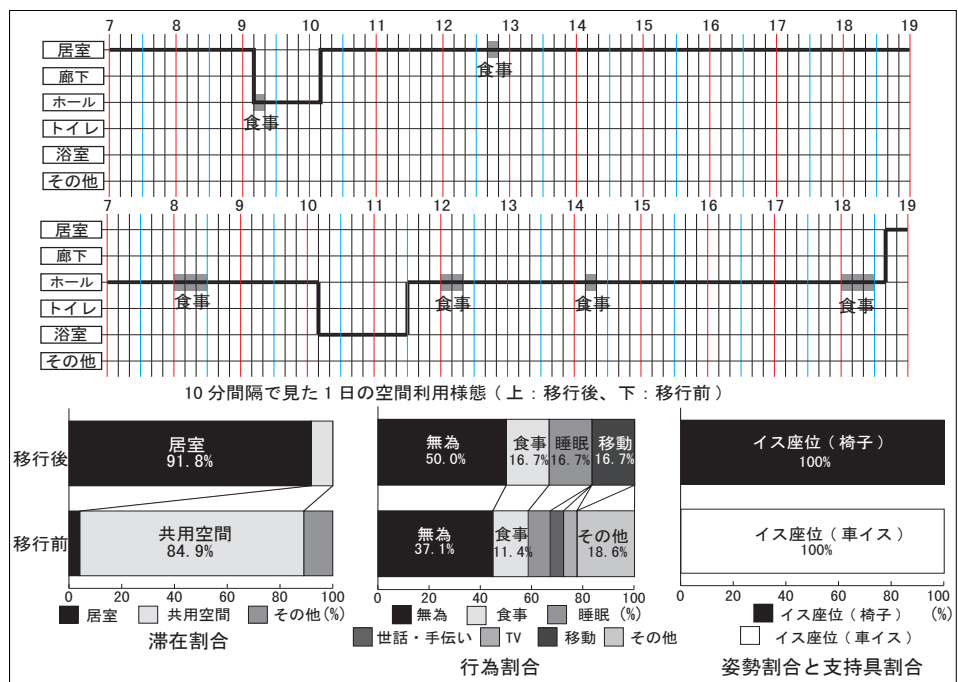


図 4. 生活と行動の変化(利用者A)